

問1 桓武天皇が、奈良の平城京から都を移した背景や目的について説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2022年 岐阜公立入試 類似）

1. 奈良の大きな寺院が政治に強い影響力を持つようになったため、それらの勢力から離れて天皇中心の政治を立て直そうとした。
2. 東北地方で反乱を起こした蝦夷を鎮圧するために、軍事的な拠点としてより北に位置する山城国へ拠点を移す必要があった。
3. 平氏が勢力を強めていた奈良の貴族に対抗するため、平氏の拠点であった現在の京都周辺に都を築いて懐柔しようとした。
4. 大陸から最新の文化や制度を取り入れるため、難波津などの港に近く、船での往来に便利な場所へ都を移すことが求められた。

問2 平安時代中期、藤原道長や頼通の時代に全盛期を迎えた「摂関政治」において、藤原氏が長期間にわたって政治の実権を握り続けることができた手法として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、その外祖父として政治を行う手法
2. 地方の有力な武士団を直属の軍隊として組織し、圧倒的な武力によって朝廷内の反対勢力を排除する手法
3. 墾田永年私財法を背景に広大な荘園を集積し、天皇から経済的に完全に独立した政府を樹立する手法
4. 遣唐使の廃止によって外国の影響を排除し、藤原氏独自の法律を定めて朝廷の官僚機構を支配する手法

問3 9世紀末に菅原道真が遣唐使を停止させたことは、その後の日本文化に大きな影響を与えました。この背景に関連して、清少納言らが活躍した時期の文化の特色として最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀公立入試 類似）

1. 唐の文化をそのまま取り入れるのではなく、日本の風土や生活感覚に合わせた国風文化が発達した。
2. 大陸との交流が活発化したことで、最澄がもたらした仏教思想が貴族の生活の隅々まで普及した。
3. 武士が政治の表舞台に登場したことで、力強く素朴な文化が好まれるようになった。
4. 平氏の権力が強まったことで、瀬戸内海の交易を通じて宋の文化が急速に広まった。

問4 12世紀後半に武士として初めて太政大臣となり、政治の実権を握った人物が行った経済政策として最も適切なものはどれですか。この人物は、現在の神戸市にあたる場所に港を整備したことで知られています。（2026年 福島公立入試 類似）

1. 大輪田泊を修築し、宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。
2. 勘合を用いて明との貿易を行い、倭寇の取り締まりを強化した。
3. 朱印状を発行して東南アジア諸国との貿易を奨励した。
4. 堺や博多の商人に特権を与え、座を廃止して自由な取引を認めた。

問5 平安時代中期に、それまでの中国（唐）の影響を強く受けた文化から、日本独自の「国風文化」へと変化していった歴史的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 岐阜公立入試 類似）

1. 遣唐使の廃止によって大陸との公的な交流が途絶え、それまでに取り入れた大陸文化を日本の風土に合わせて消化・吸収する動きが強まったため。
2. 天台宗や真言宗といった新しい仏教が、唐の最新の文化をそのまま取り入れることを厳格に禁じたため。
3. 律令国家の仕組みが完成し、唐の制度や文化を学ぶ必要がなくなったため。
4. 武士が政治の実権を握り、大陸の影響を受けた貴族文化に代わる、素朴で力強い文化を奨励したため。

問6 平安時代に藤原氏が長期にわたって政治の実権を維持できた仕組みについて、その理由として最も適切な説明はどれですか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 自分の娘を天皇の妃とし、その子供を次の天皇に立てることで、母方の祖父や親戚として政治を補佐したため。
2. 地方の有力な武士団を直接組織し、反対する貴族や寺社を軍事的な力で抑え込んだため。
3. 天皇を退位させた後に上皇として院庁を開き、天皇に代わって政治の決定を下す体制を整えたため。
4. 地方の荘園の持ち主から土地の寄進を受け、その管理権を独占することで国家の財政をすべて掌握したため。

問7 現在の京都府と滋賀県の境に位置する比叡山について、ここを拠点とした人物とその活動に関する記述として正しいものはどれですか。（2014年 沖縄公立入試 類似）

1. 最澄が延暦寺を建立し、天台宗の布教だけでなく、後に多くの名僧を輩出する修行の場とした
2. 空海が金剛峯寺を建立し、密教の教えを体系化して真言宗を確立した
3. 行基が民衆への布教活動を行い、東大寺の大仏造立に協力した
4. 鑑真が唐から来日し、正しい戒律を伝えるために唐招提寺を建立した

答え合わせ・解説

問1	答え 1 奈良の大きな寺院が政治に強い影響力を持つようになったため、それらの勢力から離れて天皇中心の政治を立て直そうとした。	奈良時代、東大寺などの有力な寺院が政治に深く介入し、天皇の権威が揺らぐ事態が生じていました。桓武天皇はこうした仏教勢力の影響を断ち切り、律令政治を再建することを目指しました。そのため、既存の有力寺院が存在しない土地を選んで遷都を強行しました。遷都後も、新しい仏教である最澄の天台宗や空海の真言宗を保護し、旧来の奈良仏教に対抗させようとした。
問2	答え 1 自分の娘を天皇のきさきとし、その間に生まれた子が天皇になった際に、その外祖父として政治を行う手法	藤原氏は、一族の娘を天皇の後（きさき）として送り込み、その間に生まれた皇子を次の天皇に即位させることで、天皇の母方の祖父である「外祖父（がいそふ）」という地位を確立しました。この血縁関係を背景に、天皇が幼少の間は「摂政」、成人してからは「関白」という官職に就くことで、政治の決定権を独占しました。武力や独自の法律ではなく、天皇との個人的なつながりが権力の源泉であったことが特徴です。
問3	答え 1 唐の文化をそのまま取り入れるのではなく、日本の風土や生活感覚に合わせた国風文化が発達した。	菅原道真による遣唐使の停止は、それまでのように中国（唐）の文化を直接輸入することが難しくなる転換点となりました。その結果、これまでに取り入れた文化を日本人の感性に合うように消化・吸収する「国風文化」が生まれ、かな文字の使用とともに清少納言の『枕草子』や紫式部の『源氏物語』といった文学作品が発展しました。
問4	答え 1 大輪田泊を修築し、宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。	平清盛は、武士として初めて政権の頂点に立つと、経済基盤を固めるために日宋貿易を推進しました。そのために、現在の神戸市にあたる大輪田泊を大規模に修築し、宋の大型船が停泊できるようにして、宋銭や陶磁器などの輸入を行いました。
問5	答え 1 遣唐使の廃止によって大陸との公的な交流が途絶え、それまでに取り入れた大陸文化を日本の風土に合わせて消化・吸収する動きが強まったため。	遣唐使の廃止により、中国の文化をそのまま模倣するのではなく、日本の気候や生活習慣、日本人の感性に適した形へと作り変える傾向が強まりました。これが、大和絵や寝殿造、かな文学といった日本独自の文化形成につながりました。
問6	答え 1 自分の娘を天皇の妃とし、その子供を次の天皇に立てることで、母方の祖父や親戚として政治を補佐したため。	藤原氏は「外戚（がいせき）」という血縁関係を基盤に権力を維持しました。自分の孫にあたる天皇が幼少の間は「摂政」として、成人してからは「関白」として政治を司り、実質的な最高権力者として振る舞いました。これは武力や法的な制度の変更よりも、天皇との個人的な血縁の結びつきを重視した政治スタイルです。
問7	答え 1 最澄が延暦寺を建立し、天台宗の布教だけでなく、後に多くの名僧を輩出する修行の場とした	比叡山に延暦寺を建てたのは最澄であり、彼はそこで天台宗を広めました。この寺院は、鎌倉時代に新しい宗派を開いた法然、親鸞、一遍、道元、日蓮といった僧侶たちが若き日に修行した場所としても知られています。空海は高野山（和歌山県）、行基や鑑真は奈良時代に活躍した人物であるため、時代や場所が異なります。